

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和 3年 3月 10日

事業所名 児童発達支援事業所 ともい木

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	0	・グループ別で部屋を分けて課題を行ったりしている。	・基準の中で確保しているが、もう少し広い方と思うときもある。
	2	職員の配置数は適切である	3	2	0		・配置数は適切であるが、未満児が多い場合など、職員の増員は必要に感じる。 ・配置基準は満たしているが、子どもの年齢や介助度によってもう少し人数を増やす。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	2	0	・活動に合わせて、区切るなど分かりやすいように行っている。 ・衝立(手作り)や、セラピーマットなどを活動ごとに上手く使い、どこで何をするのか分かりやすく提示している。新築の建物であり、設備やバリアフリーに問題はない。 ・構造化が全てと思わないが障害特性や年齢に合わせた配慮や教材は十分整っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	0	・毎日の清掃や消毒、環境整備は日頃から心がけている。 ・常に清潔感を保てるよう、朝夕の掃除など徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	0	・コロナの影響で、保護者が参加できる活動を行えていないため、個別相談や家庭へ出向いての支援を考えていきたい。	・今年度、初回。これから行う。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	1	・令和2年4月開所。自己評価実施が初めてだが、必要な情報は発信していく。	・今年度、初回。これから行う。 ・これから行う予定。 ・開所初年度であるため、これから行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	3	2	・令和2年4月開所。自己評価実施が初めてだが、必要な情報は発信していく。	・外部評価を行っているか、分からない。 ・今後、検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	・今年度はコロナの影響で研修が少なく、施設内での勉強会等を行った。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	0		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	0	・発達検査「KIDS」を使用。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	0		・「地域支援」に関しては若干少ない。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	0		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	・様々な課題を全ての子どもが経験できるよう、月案を立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成している	5	0	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0	・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	0	・必ずは行えていないが、気づいた点は話し合っている。 ・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	・振り返りの共有が上手くいかないこともあるため、ミーティングノートなどを活用し共有を図っても良いのか。 ・勤務時間の関係で、終了後の打ち合わせは行いづらい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	0	・希望に合わせて行っている。 ・就学前の子供たちの療育の場であり、障害特性や年齢に合わせ、また保護者支援も大事なことであり、必要なときは職員間で情報共有を行い、振り返り等を心がけることで、よりよい支援を目指している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・該当者なし。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・該当者なし。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	0	・コロナ禍で難しい面もあると思うが、希望に合わせて行っている。	・コロナの影響で今年度は少なかった。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	0	・コロナ禍で難しい面もあると思うが、希望に合わせて行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	0		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	0	5		・コロナ禍ということもあり、難しい。 ・今のところ交流はないが、今後機会があれば良いと思う。 ・十分な対応は現状できていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	2	3		・開催されているか分からない。 ・参加する機会がない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0		・保護者と話す時間を増やしていきたい。(施設内相談や家庭連携など)
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4	0	・ペアレントトレーニングは行っていないが、家族への支援は意識して行っている。 ・ペアレントトレーニングは行っていないが、家族支援は重要視している。	・家庭で行える支援を随時アドバイスしているが、ペアレントトレーニングになっているかは分からない。もう少し家族に密着した関わりを心がけたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	0		・「適切な助言」に関してのノウハウは日々の研鑽を怠らないように心掛けたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	4		・コロナ禍のため、未開催。 ・今年度はコロナの影響で行えなかった。 ・今後の検討課題。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0	・ささやかな物だが、定期発行を行い、事業所の様子・予定・依頼等発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	0	・十分行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	・十分行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	4		・今年度はコロナの影響で行う機会がなかった。 ・開所間もない事業所であり、今後検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	0		・保護者への周知が十分でなかったため、今後周知していく方法を検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0		・緊急時の保護者への連絡方法を具体的に話し合う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	0	・保護者からの聞き取りで対応している。 ・保護者を通して、伝えてもらっている。	・保護者からの情報のみ。指示書に当たる書式の検討も必要か。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3	0		・ヒヤリハットが出た際は、ミーティングにて共有し、事例が増えた際には事例集の作成も検討か。 ・事例集の作成までには至っていない。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	0	・コロナ禍のため、研修に行けていないが、意識はしている。 ・今年度はコロナ禍のため、受けられていないが常に意識はしている。 ・積極的に参加させるよう取り組んでいる。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	0	・身体拘束は行わないことが前提になっている。どこまでが身体拘束にあたるのか振り返りは心がけている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。